

慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンター 関恭子 (受講番号 29)

慶應義塾大学三田メディアセンター 原田奈都子 (受講番号 30)

慶應義塾大学理工学メディアセンター 吉井由希子 (受講番号 31)

(1) 発表資料の状況設定

慶應義塾大学内の各キャンパスに分散するスタッフが機関リポジトリ事業に関する情報を共有し、共通認識をもち、理解を深め、通常業務においてそのコンテンツを扱うこと、それによる業務の変化を意識し、各自がビジョンをもつ機会とする。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

抄録

リポジトリの概要：研究者と大学にとってのメリット

世界の情勢／日本の情勢（NII の CSI）

慶應の現状：CSI 事業参加による本部開発機関リポジトリ

各地区独自運用アーカイブ

目指すリポジトリの形：統合と独立性を維持する慶應モデル

従来の業務ラインへの取り込み

出版者と共同したデジタル発信

→ 学術情報発信窓口となる=図書館の役割の変革

そのためにやらねばいけないこと：構築方針の確立とスタッフの情報共有

研究者の生態のマーケティング

コンテンツとなる情報の調査

学内他部署との連携

効果的な広報手段・戦略

→ 新しいコミュニティの形成

研修発表との内容等変更 特になし。

(3) リハプレゼンの概要（日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.）

慶應義塾大学メディアセンター研究発表会

：年に 1 回慶應義塾大学の各キャンパスのメディアセンターのスタッフが集まり、タスクごとの委員会、その他の業務報告、研究発表を行うもの

日時：2006 年 11 月 24 日（金）13:00-17:00

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 北館 2 階ホール

※14:10～「デジタル化事業について(含 NII 研修報告)」として本部スタッフと共同報告

(4) リハプレゼンへの反響（アンケートをとった場合の結果、感想の声等）

全体プログラムの都合により質疑応答の時間がとれなかったが、閉会后個々に下記のような感想が聞かれた。

- ・機関リポジトリの重要性と図書館でのコンテンツ作成の重要性がわかった。
- ・学内各キャンパスの様子がわかってよかった。
- ・他大学の動き（方向性）に興味をわいた。
- ・NIIの事業に関し、普段はCiNii等サービスを利用するのみなので、（システムやサービスを）作る側からの観点を聞くことができよかった。
- ・リポジトリについては、向かっていく方向はいろいろありうると思うが、慶應は慶應の方法でやるということでもいいのかな、とあらためて思った。

研究発表会でプレゼンテーションを行ったことで、「各地区に分散しているスタッフ（特に機関リポジトリに直接関わっていないスタッフ）に慶應義塾大学の現状とこれからの展望を伝える」という目的は達成できたと思う。今後も、さまざまな機会に状況や方向性をスタッフ皆に伝えて理解を得ながら進めていく必要があると感じている。

(5) その他（備考、今後の予定と希望 etc.）

特になし。

以上